

令和元年度全道児童委員活動研究集会 分散会グループ協議概要

児童委員の分散会、主任児童委員の分散会、児童委員と主任児童委員合同の分散会の何れかを選択いただき協議、情報交換

分散会協議・情報交換のテーマ（協議・情報交換いただくテーマは下記の5つのテーマからグループごとに選択）

- テーマ1 「子どもたちの身近なおとなとなり、地域の子育て応援団となるために」
※すべての親子が地域のなかで誰かとつながっていることを実感し、何かあったときには頼れる相手がいるという安心感をもてるようにしていくために、また、地域の子どもたちの「身近なおとな」、子育て中の親にとっての「人生の先輩、子育ての先輩」として、身近な存在となるための、登下校時の見守りや声かけ運動、子育てサロン等の開催や情報提供などについての協議、情報交換
- テーマ2 「子育て、子育てを応援する地域づくりを進めるために」
※子育てや子どもの健やかな育ちを地域で支え、率先して「子育て応援団」となると同時に、地域住民への働きかけを行なうことで地域に「子育て応援団」を増やし、子育て、子育てを応援する地域づくりを進めるための、居場所づくりや地域行事等を通じての関係づくり、子ども食堂の開催等、関係団体等との連携強化などについての協議、情報交換
- テーマ3 「課題を抱える親子を早期に発見し、つなぎ、支えるために」
※課題を抱えながら周囲に助けを求められない親子を早期に把握し、支援につなぐことで課題の深刻化防止につなげるなど、日頃から、「気になる家庭」について、地域住民から積極的な情報提供を得られる関係づくりに取り組むための、赤ちゃん訪問や乳幼児健診への協力、学校との情報交換会を通じての子どもに関する情報共有と役割分担などについての協議、情報交換
- テーマ4 「児童委員制度やその活動への理解を促進するために」
※児童委員が地域において積極的な取り組みを推進していくために、民児協の機能強化や地域住民、関係機関等へ児童委員の存在・役割の認知と正しい理解の促進を図るための取り組みについて協議、情報交換
- テーマ5 「グループで協議、情報交換したい事項」
※グループの皆さんでテーマを設定して協議、情報交換していただきます。

※この分散会グループ協議記録概要は、各分散会において提出いただいたグループ協議記録用紙の内容を直にまとめたものです。なお、重複する内容については一部省略しておりますのでご了承下さい。

公益財団法人
北海道民生委員児童委員連盟

第1分散会（児童委員）グループ協議記録概要

司会者 松田尚美氏（富良野市民児協児童委員）
助言者 大場信一氏（北翔会総合施設長）

第1グループ

○テーマ1「子どもたちの身近なおとなとなり、地域の子育て応援団となるために」

- ・室蘭市：担当地域に子育てサロン月2回（第2、第4火曜日）。運営は主任児童委員が中心に3～4人位。来られる方5～10人位。幼稚園とか保育園に入れない方が来る。役所から保健師さんが来て子育て相談等する。会費無料、おやつ（100円程度）。初期には弁当も出していた。活動期間は5年位。PRは町内会の掲示板にポスター、クチコミ。仲良し食堂月1回、第1土曜日に勉強会という名目で開催。当初困窮者で募集したが、それでは集まらないので勉強会とした。食事—50人分作る。子供は無料、大人は1食500円。6割は子供が食べる。寄付金を募っている。家庭を回って集める。食料品の提供を受けている。フードバンクを利用。運営は、民生委員、福祉委員、社会福祉協議会。社協の給食設備を借りている。その他、市内で3カ所子ども食堂が開かれている。食事だけ食べに来る子がほとんど。問題点は小学生が中学生になって代替わりになっている事。
- ・帯広市：2つの学校の花壇整備に係わる。親と子供と一緒に。
- ・名寄市：安心会議（民生委員、町内会）。夏休みの場合は6時以降に外に居たら声かけをする。不審者への対応。
- ・函館市：ゆうやけ広場。学校終了後、希望者が学校に残り、大人が行って遊んだり、勉強を見てあげたりする（お年寄り）。
- ・江別市：学校見学があり、給食を食べることができる（実費）。

◆登校時の見守り

- ・室蘭市：2km以遠になるとスクールバスが出る。町内会の見守り隊、民生委員も出る。各地域で見守りを行っている。年代が高齢化している。夏休みのラジオ体操で顔見知りになる。

◆子育て応援団

- ・子供が生まれると絵本やおむつ、液体ミルク等が配布される。お母さんと話すきっかけになる。子供が小さい時の方が話し掛けやすい。
- ・子育てサロンで相談できるのは、大変良いことだと思う。

第2グループ

○テーマ1「子どもたちの身近なおとなとなり、地域の子育て応援団となるために」

○テーマ2「子育て、子育てを応援する地域づくりを進めるために」

- ・函館市：小学校—ゆうやけ広場～民児週2回。見守り隊、交通安全、横断歩道指導
- ・帯広市：交通安全（緑のおばさんの廃止、12年前。全域）
平成18年4月にここパトロール 50名。交通指導員

- ・岩見沢市：小、交通見守り隊
- ・滝川市：育成協見守り隊。小P、町内会。登校下校—パトロール（3名、18回）。バスケット指導、野球の指導者。
- ・室蘭市：民児委員と福祉委員がセット。交通指導、青パト、防犯協。
- ・北広島市：交通指導、民児当番表、P。
- ・小樽市：交通指導、民児と福祉、P。パトロール任意—祭典時を含む。
- ・江別市：交通見守り隊—毎週木曜日、スクールゾーン。町内会にて当番表。民児、PTA。
- ・司会：地域子供達を育てる方、交通パトロール。
- ・意見：学校統合により送迎バスなど、保護者、見守り地区、送迎バス地区がバラバラ。子ども会

◆子育て応援団づくりと子育て地域づくりについて8市の状況。
（地域の特色取り組み）

- ・子ども食堂について
- ・小樽市：（樽商大）一月1回。子ども食堂、民家。
- ・帯広市：子育てコミセン月1。高齢者サロン
- ・室蘭市：ふれ合いサロン→地域ごと。会員供出。
- ・北広島市：子ども食堂。中学校—運営、調理—民児委員。参観日・交流会、民児主催。教育関係。
- ・江別市：子ども食堂
- ・函館市：子ども食堂
- ・岩見沢市：子ども食堂 月1回

第3グループ

○テーマ5「グループで協議、情報交換したい事項」

◆情報交換

- ・北広島市：3地区で成り立っています。民生委員7名、欠員。成り手がいない。活動一月1度、中学校の授業参観を見学し交流を深めている。又、当番制で夏休みは公園の見回り、幼稚園、保育所を見回っている。
- ・旭川市：地域によって子供の数が異なる（バラつきがある）。子供の多い所では声かけ運動を行っている。
- ・函館市：お正月、クリスマス会の子供の集まる会には、ボランティアでお手伝い等に入っている。
- ・岩見沢市：炭鉱町なので住んでいる所により、考え方や格差が激しい。平日毎日、親と子供の子育てサロンを開催している。
- ・室蘭市：12地区で成り立っている（30名）。ケアハウス3棟。子育てサロン20名→2、3名に減少。利用者が減った。要請があれば、不登校の生徒がいれば、主任児童委員と民生委員とが接触する事もある。高齢者と若い人の二極化した町で民生委員も高齢者の為、民生委員同志で横の繋がりを大事に助け合っている。
- ・帯広市：学校の行き帰り、見回り活動。学童保育等も参加し、コミュニケーションを図っている。小学校、中学校はなかなか内情を話してくれず、良い話しかしない。実態が悪くなってから情報が入るので困る。

- ・室蘭市：地域の老人会で小学校を訪問し、昔の遊びや凧を一緒に作ったりして子供達と交流を図っている。お礼に小学生が学校に老人会を招待し、お年寄りとの交流を図っている。

第4グループ

○テーマ1「子どもたちの身近なおとなとなり、地域の子育て応援団となるために」

- ・北広島市：子供サロンを実施（年4回）。カレーライス。児童委員と民生委員で実施。活動費が出ている。中学校の特殊学級の見守り（運動や遊び）。2～3ヶ月に1回、給食を一緒に食べる。
- ・旭川市：小学生の登下校の見守り実施（毎日）。町内会とタイアップ。
結論—今、出来る事を頑張ってる。お婆さん（死亡）の年金で娘さんが知らせないで暮らしていた。
- ・岩見沢市：親子広場、週1回10：00～12：00、児童館。母親と子供（入学前）。見守りを実施。20人前後。
- ・江別市：赤ちゃん訪問。生まれた時に本をプレゼント。
- ・旭川市：1歳になったら絵本をプレゼント。（市から）

◆困っている事

- ・あまり拡大すると民生委員に負荷がかかる（高齢化）。
- ・民生委員の成り手がいない。

第5グループ

- ・室蘭市：高齢者のみ、サロン（コーヒーのみ）。
- ・江別市：新入生見守り。公園さびしい。
- ・函館市：お菓子作り。学生交えて。
- ・北広島市：子育て中、地域の広がり不足。
- ・深川市：学校訪問、子供素直。高齢者と繋がり。
- ・旭川市：高齢者ランチ（500円）。世代間交流。
- ・帯広市：見守り、ラジオ体操、公園
- ・留萌市：子ども食堂90人、子供無料。児童センター、主任児童委員の役割。

◆討論から

- ・民生児童委員、主任児童委員とは。
- ・子ども食堂。貧困。児童館9：00～21：00→発展する可能性。会議。NPO。公民館。バス無料。
- ・おばちゃんの活力、ふれあい基金。
- ・何を支援すべきか。

第6グループ

○テーマ5「グループで協議、情報交換したい事項」

- ・北広島市：地域の小中高で月に3回声掛け、挨拶。子どもサロンを開催（年2

- 回) 公園の見守り。清掃。お揃いのジャンパーを着用。(大曲地区)
- ・留 萌 市：小学校での声かけを週に2回。海岸のゴミ拾い(年1回)。
 - ・深 川 市：交通指導。見守り隊(春)。ふれ合いサロン週3回。ボランティアの協力。保育所、学校訪問年1回。(納内)
 - ・函 館 市：登下校のパトロール月2回。中学校の授業参観を実施(年2回)。(児童、生徒に対する今後の対応が難しい。)
 - ・室 蘭 市：交通指導(月～金)毎日。青少年の団体と協力してお汁粉、豚汁を作ったりする。
 - ・旭 川 市：赤ちゃんサロンを月1回。うぶ声の絵本を配達。地域食堂の手伝い2ヶ月に1回。
 - ・江 別 市：過疎化が進んでいる。夏は縁日、冬は室内遊びを2回程開いている。
- ◆問題点
- ・行事に対して声を掛けても参加する人が少ない。参加する人が固定している。お年寄りの動きが悪く、女性は多いが男性は3割位しかいない。
 - ・中心になる人のリーダーシップが大事。
 - ・一人では出来ないので全体で取り組む必要がある。(協議会)
 - ・民生委員の業務内容の方向性をしっかり見分けられる様にしたい。
 - ・最後は民生委員の任期についての悩みを話した。3～4年の民生委員が多い。10年以上は1人だけ。

第7グループ

○テーマ2「子育て、子育てを応援する地域づくりを進めるために」

○テーマ4「児童委員制度やその活動への理解を促進するために」

- ・子どもサロンを開設。地区2カ所の小学校、中学校で。
- ・夏休み中に2カ所で子どもの居場所。1カ所、1日として活動を持つようになった。内容は昼食づくりやゲーム。
- ・民生地区会長さんが替わった2年程前から、大きく会の内容も変わった。
- ・児童委員の交流会もある。
- ・自分の担当する地区で子供のイベント的なものがあったか。
- ・富良野市：変質者が出た時には防犯役が出動したりするが、それもあまりないので。
- ・民生委員で障がい学級で野菜づくりや食事を作り、民生委員の顔を知ってもらうため、皆で行動するようになっている。
- ・江 別 市：6つあり、その中の一つで子育てを立ち上げ、センターで幼児と親を対象に体育館などでの交流を図る。
- ・学校では案内が来るが、紹介されるのが嫌だという人もあり。中学校の役員、教師が年1回位で自治会の話し合い。子ども食堂も開かれているが民生は関わっていない。
- ・民生は繋ぎ役なので深入りしないよう、お手伝いとして動いている。児童委員は現場に入っていないといけないと思う。包括センター等に知らせるくらいだ。
- ・釧 路 市：学校運営委員となって出向く。19地域で各々学校訪問があり、学校との情報交換がされている。子供が急にキレル等の場合は教育委

員会とで情報交換される。

- ・帯広市：年1回民生と主任児童委員とで話し合いをする。通学時の見守り等をする。
- ・夏休み中のラジオ体操でも子供が出てこない。小学生、低、中学年。やはり家庭環境。朝ごはんを食べていない子が多く感じる。食べてもお菓子とか、バナナだけとか。親の生活リズムから作るべきではないか。
- ・北広島市：月1回しゃべり場、若い母親の雑談、悩みを聞くだけの会がある。進言はできないが聞くだけでも良いのでは。3～4名の若い母親からの話で定着している。民生は2～3名参加。(都合ついた方で参加)主任児童委員は必ず参加。

第8グループ

○テーマ1「子どもたちの身近なおとなとなり、地域の子育て応援団となるために」

- ・釧路市：団地、朝の挨拶運動を何年も続けている。学校の門前で年に数回。小学生から声掛けをしていると、中学生になっても応えてくれる。気軽に声掛けが続けられている。
- ・北広島市：月・火・水、民児委員に老人会の方も月1回参加して来ている。他の場所で会っても、互いの声の掛け合いが生まれている。地震の時に互いの気遣いの声かけが生まれている。
- ・旭川市：学校訪問、新学期の交差点での安心安全見守りをしていて、子供達や父母とも顔見知りができ、良い関係が生まれつつある。子どもサロン(ワイワイ食堂)月1回。絵本を配達。
- ・北広島市：学校との連携は大切。先生達も積極的。
- ・函館市：子供との関わりが少ない。学校統合のために遠方に通学している。
- ・網走市：学校訪問、学校行事に参加。校長、先生、教員。町の行事に参加し、互いに身近な存在。町の防災、行事に行政等と密接な関係が生まれている。
- ・函館市：市の中心部が衰退してきている。
- ・江別市：住宅地だが人口が減って、子供の姿はなく4～5人しか見えない。町内会も寂しく、挨拶も気後れしてしまう。
- ・帯広市：地域によって事情が違う。若い民生委員をどう育てるか。地域の担い手を育てるために残りの任期、力を尽くしたい。
- ・衰退する地域、新興住宅地、その中間の住宅地。それなりの問題が存在する。それぞれから学び合い、息長く続けていこう。

第9グループ

○テーマ1「子どもたちの身近なおとなとなり、地域の子育て応援団となるために」

- ・函館市：小中学校、入学、運動会より案内が来ているので連携を取っている。
- ・旭川市：登下校の見守り。
- ・釧路市：挨拶運動。小中学校の訪問。

- ・網走市：小中学校が多い地区は活気があり（児童数600名）活動している。小学校の下校見守り（月2回各々訪問）。離れている所はバス停等で見守りをしている（黄ベスト）→1年生に紹介している。挨拶運動（繋がり）
- ・江別市：青年少年部（年2回）が縁日やゲーム、餅つきをして300名（父兄も）参加して親睦を深めている。不登校までは分からない。
- ・富良野市：見守り隊を作って、小中学校へ。
- ・北広島市：団地で高齢者が多く、それが中心である
- ・給食の時間が短いという話から（食べ残しがある）、学校給食を食べに行き、先生達と話を持っている。
- ・交通ルール。危ない時は、注意をしている。（良い関係になっている）
- ・通学路にて「挨拶」を小さい時からしているので「見守り」をしている。
- ・地域のイベントを通して、中学生のボランティア部が活躍して参加し、その中で協力、見守り、又は見守られている。
- ・障がい者と子供の係（ろうあ者）もある。知ってもらふ事も大事。
- ・旭川市：生まれた時、絵本「うぶ声の贈り物」を2冊プレゼント。民生委員が訪問している。月に10件。親を知る事にもなる。繋がりができ、顔見知りになる10年以上。（子供が生まれた事をどこで知ったのか、と怒られる事もある。）
- ・子供は宝で、色々な行事を通して、関わり、見守りを行っている。
- ・このグループ内では「虐待」の話は聞こえてきていない。でもどこかで、あるのだろうという不安がある。

第10グループ

○テーマ4「児童委員制度やその活動への理解を促進するために」

- ・民生委員になる人がない。
- ・今年の改選期に向けて補充できる見込みもない。
- ・街（町）では民生委員に来てほしくないという感情が今でもある。
- ・農村や小さな地区では隣近所の様子もよく分かり、理解も得られやすい。
- ・2町内会から推薦されている状態（1人を）。
- ・定年制はあるが、80才過ぎてもやっている状態。（地区にどうしても成り手がなく、続けていることも）
- ・民生委員には何でもやってもらえると思われていることもある。
- ・民生委員になる時には、「数回の会議に出るだけ」とか、簡単な事だと言われたが、大変な仕事であることは確かである。
- ・ブラックアウトの時、確認に歩いた。
- ・民生委員の仕事は一般に理解されていない。
- ・地震の後、高齢者を訪問したら（普段は単身者）、身内がいて「生活保護を貰っているのか」と激怒。訪問の趣旨を理解してもらおうのが大変だった。
- ・民生委員＝生活保護と思われているのか。
- ・年に一度「民生委員のたより」を作って、氏名なども入れ担当地区に行っている。
- ・年2回程、団地内の広報に載せている。

- ・市から65才、75才の時、健康調査等の確認の為名簿が来るので、居住の確認をしている。
- ・「児童虐待防止」の意識づけの為、オレンジリボンをつけている。
- ・個人の守秘義務というのが戸別訪問等で難しい面がある。
- ・民生委員と関わりたくないという面も見られる。
- ・町内会に未加入家庭が増えている。
- ・「介護認定」の講習会を開催している。
- ・一人暮らしの人が入院した後戻れないケースが多く、空き家が増えている。
- ・登下校の時「見守り」活動をしている。
- ・小さな学校だと行事にも声が掛かる。
- ・「見守り」等に対し、小学校から年度末に感謝状（手作り）等を戴いたりすることもある。
- ・入学式等も主任児童委員に招待があることも。
- ◆「地域包括センター」との関わり方
- ・定例会に毎月来ているところと職員が代わった時だけのところがある。

第11グループ

○テーマ1「子どもたちの身近なおとなとなり、地域の子育て応援団となるために」

◆学校との連携、地域との関係

- ・旭川市：週1回交通の見守り。小1年の給食指導のお手伝い。月1回学校—主任児童委員。保育所へのボランティア。遊んだり、お手伝い。
- ・苫小牧市：下校ボランティア（毎週1回月曜日）ラジオ体操。1年に1回ゴミ拾い（地域の方、民生委員も入っている）。
- ・富良野市：それぞれの学校ごとに見守り隊（10、25日）月2回の登校の見守り（定期的）。
- ・函館市：主任児童委員と連携。学校行事の案内。新入生の1週間通行見守り。
- ・帯広市：定期的に交流（学校）。登下校時の見守り。特に低学年。不審者対策。日常的に顔見知りの状態を作る。
- ・江別市：学校公開日年2回。一般市民（地域）民生委員も訪問。
- ・旭川市・江別市：子どもが生まれたら、主任児童委員がお祝いを配る。
- ・町内（地域）でお祝いを配る。
- ・子供と大人の繋がり、ふれあい場面でお手伝いをする。
- ・旭川市：給食サポート2日間（学校からの依頼）。居場所作り—小学校の体育館。毎週土曜日。
- ・江別市：土曜広場。折り紙作り、ゲートボール、物作り、紙芝居（地域の人達がボランティア）。特技を生かして子供達に教える。
- ・今の子供は外で遊ぶ子が少ない→活動の仕方が分かっていない。
- ・PTAの予算で水泳、スキー（スケート）教室を開いている。
- ・地域の学習指導—学校（教室）を使って、教員OB等がボランティアで活躍。（人材センターから派遣）
- ・高齢化が進んでいるが、少しずつ様変わりをして若い世代が増えてきている。

- ・江別市：子ども食堂（お寺）を利用。年に3回。
- ・コミュニティサロン、高齢者の集いが増えている。
- ・富良野市：地域でミニサロンが増えてきている。
- ・函館市：子供が集まる方法を考えなくてはならない。餅つき。

第12グループ

○テーマ1「子どもたちの身近なおとなとなり、地域の子育て応援団となるために」

- ・苫小牧市：全体として学校との繋がり（子供達）、地域との繋がり（町内会）。機関紙を年3回発行→町内会、小中学校。5人委員。地域の取組み（行事）、交流会。依頼原稿（主任児童委員）。夏休み前に学校生徒指導。夏休みパトロール3人編成。主任児童委員が行事に参加（入学卒業式）。交通安全。ラジオ体操に参加。19地区。
- ・江別市：団地、マンションの60%高齢者。若者+子供。大麻夏祭りに参加。子供と遊ぶ。年2回集団下校 ラジオ体操。他の団地の子供から不審者扱い。顔を覚えてもらう。小中学校訪問。行事の参加、主任児童委員。お知らせの発行をもらう。子供の動き。学校だより。行事予定表。
- ・旭川市：街中に子供がいない。お店と住居の分離。中学校3統合。出生児に絵本を配る。繋がり。旭山動物園の元職員一旭川市長の公認。ゲーム大会に参加。
- ・富良野市：一人暮らし老人が増加。独居老人に力を入れている。特別な授業参観に参加。学校との繋がり。自分の眼で見る。
- ・函館市：30民協。学校行事に参加。年2回 夏・冬の前にPTAとの授業参観。校外生活委員会、民生委員。

◆フリートーキング

- ・主任児童委員との繋がり。
- ・子供の出来事等、情報交換しているか。
- ・校長、教頭から教えてもらえる学校と情報ストップをかけられる。
- ・学校とのコミュニケーションを取る飲み会。
- ・学校からのフェイク情報もあり、不登校いじめゼロ。
- ・民生委員も部外者扱いを受ける。
- ・学校とのコンタクトをどう取るか。
- ・コミュニティスクール、協議会、おやじの会。
- ・中学生と地域との触れ合う場。老人訪問。生徒会。
- ・大学生が夏祭りに参加。子供達と遊ぶ。
- ・子ども食堂。大学が参加。
- ・講師の先生、素晴らしかった。子供との繋がり、赤ちゃんと触れ合い。子供の存在価値を認める言葉。居場所を作る。
- ・自分の体験を自分の言葉で表現。
- ・見守り⇔監視

第13グループ

○テーマ4「児童委員制度やその活動への理解を促進するために」

- ・緑のおばさんや児童館放課後の見守り活動で挨拶や声掛けを続けると、子供の方からも返事が返ってくる様になるので、諦めずに続ける活動が重要であると話し合われた。

◆課題

- ・家から出ない子や中学生。家から出ない子は掴みにくいし、中学生は反抗期と重なって、親と先生、親と児童委員だけの間にとどめる傾向にあるのが難しい。
- ・低所得者家庭、若い親家庭、飲食店街の子供に問題が多いのだが、児童委員だけでは解決出来ない問題と重なっているため、民生委員とタイアップしないといけないと、まとまった。
- ・個人情報で子供がどこにいるのか把握出来ない。
- ・新築入居や乳幼児や生まれた赤ん坊を把握できない事で困難を感じている。
- ・世帯表（家族構成）出してくれる市もあるらしい。出さない市があるので自分の担当の地区はアンテナを張って、日々様子を見守り、町内会の近所から情報を得たりする活動が重要と思う

14グループ

○テーマ5「グループで協議、情報交換したい事項」

- ・苫小牧市：小学校でケース会議開催（学校の依頼があり）。児童委員、学校、市の福祉課（ケースワーカー）。主任児童委員は地域の状況にまでは入っていけない。主任児童委員と児童委員と一緒に活動。
- ・江別市：小学校から見守りの依頼があったら出掛けている。子供達と児童委員。顔の見える関係を作れば良い。
- ・富良野市：学校から参観日に民生委員にも案内が来る。登下校で見守り隊。
- ・旭川市：民生委員には運動会、参観日に案内はない。学校によっては案内があるところもある。
- ・北見市：主任には学校からの案内ある。
- ・帯広市：登下校時に散歩を兼ねてパトロールする取り組み。見守りを兼ねて地域での取り組み。
- ・旭川市：「おおきくなあれ」本を送る。旭川の事業。本は費用が多額になる。出生時に主任、民生委員が。主任児童委員が直接手渡す。母と主任の顔合わせ。次に繋がる。
- ・帯広市：地域の繋がりが希薄になっている。
- ・東川町：子の出生時に赤ちゃん用の「椅子」を送っている事業もある。
- ・旭川市：児童虐待のマークを手作りしている。ティッシュ配りもしている。
- ・苫小牧市：児童虐待のシンボルバッジが主任、民生委員にも配られた。児童虐待防止のティッシュ配り。10年以上実施。
- ・旭川市：「あたたかい地域を作りましょう」と標語募集。学校に依頼。12

0位。優秀なものをまとめてポスターにして配布した。(初めての取り組み)

- ・江別市：地域、農家が主体。住宅地、子供達がいて生活している。支援が必要な子育て世代、高齢者世帯もあまりない。災害時、要援護者の名簿有り。その時はお願いします。
- ・苫小牧市：高齢者調査、年1回行っている。訪問時には、対象とする方のみの情報を持って訪問する。
- ・帯広、江別、苫小牧市：市から訪問して、確認してくれているものあり。
- ◆民生委員定員に達しているか。
 - ・苫小牧市：定員いる。
 - ・帯広市：年齢制限を撤廃した。
- ◆子ども食堂
 - ・江別市：ある。NPO法人が主体で運営している。子ども食堂の運営は大変だ。
- ◆広報誌
 - ・旭川市：今回5号目。地域民児協区域に全戸配布。
 - ・江別市：ふれあいサロン

第15グループ

- ◆地域の動き、現状報告
 - ・函館市：8月から小学生～高校生まで。高校生ボランティア、社会福祉クラブで子供、高齢者施設で活動(児童館)。キャンプ、スキー、雪遊び等。赤十字主催2泊3日で。中学生、7地区に分けて情報交換。小学生、虐待現状について、民生が見守り、声掛け。母子、父子家庭など。
 - ・旭川市：うぶ声の贈り物。3ヶ月を目途に絵本を届ける(民生で)。月1回、集会で子育ての悩み、情報交換。子供110番家旗を町内に一人。
 - ・帯広市：主任児童委員が学校訪問(先生と民生協力して)。身近の小、中学生に声掛け(おはよう、こんにちは)情報をもらう。馴染んだ子が挨拶してくれる。
 - ・北見市：小、中学校訪問。ゲーム。校長室で休み時間遊ぶ。不登校児中学校に登校するが、別教室で学習。
 - ・苫小牧市：19地区小学校中学校、教師、民生と情報交換。虐待、児相が室蘭にあり。昨年、苫小牧認可あり。活動—5月第2日曜に民生活動のアピールをする。
 - ・江別市：毎月ふれあいサロン、ゲーム等。主任児童委員が誕生のお祝いに。大学生、小学生、子供達募集。
 - ・富良野市：夏休み、児童館で教師、社会教育主事、高校生ボランティア。絵手紙、折り紙等、一緒にゲームをして遊ぶ試みが始められている。子供達も集中していて、学校、その他の方々との繋がりも出来る。
 - ・見守り～本人＝見守りしている。相手＝見張られている。
 - ・民生～親＝知らない人から声を掛けられても返事をするな。子＝親からそう言われている。

- ・言わなければ変わらない。
- ・2000年8人に1人、2010年6人に1人、2018年7人に1人。法律が設定
- ・地域の活動 自分に出来る事を続ける。

第16グループ

- ・旭川市：地域の民生委員が誕生した赤ちゃんを訪問し、絵本をプレゼントする。市から民生委員に絵本を届けて良いか確認がある。訪問する意味は赤ちゃんを確認する事。新聞の誕生欄に住所と氏名。民間でやっている情報誌に誕生を通知。地域によって掲載するかどうかは様々。旭川の取り組み—妊娠中（産院に通っていた経歴）から始まり20年間の経過を民生委員は知る。年間20万、市から予算が出るので、様々な活動に振り分けられる（世代間交流等）。
- ・子供に事故や問題がない限り、話題にのることが少ない。
- ・民生委員は個人情報もあり、立ち入り過ぎを心配して情報が入ってこない。
- ・士別市：学校から不登校児の要請が民生委員にある。高齢者の見守りを2ヶ月に1度行い、社協から年間に少額の予算が出る。
- ・帯広市：各小学校の生涯学習の活動の協力（お祭り等のイベントを手伝い、盛り上げ隊として活動している。）子どもも多数集まり、民生委員も関わり、企業や会社の支援も有り、大変盛況。
- ・富良野市：今年から主任児童委員の活動を学校に報告するようになった。児童館で学習会（地域の大人が子供の勉強を見る）。夏祭り等、教育委員会が発案して民生委員も手伝う。特に校長や教頭の発案で行事を計画し、協力者を募って活発に活動している。
- ・苫小牧市：全部の学校行事に民生委員は参加する。母の会を作り、町内会や民生委員も加わり、交通安全の見守りをしている。

第17グループ

○テーマ5「グループで協議、情報交換したい事項」

◆問い掛け

- 1：地域の中に子供さんはいますか？
 - ・病院、高層マンション等、通いの人も多く、周囲に子供がいない。
 - ・農村なので、年寄りが多く、生保もいなく、子供もスクールバスで行くので、接する機会が少ない（小世帯、過疎化）
 - ・150～160世帯位なので、あまり対応していない。
 - ・場所によっては、生活保護世帯があり、対応が難しい。
- 2：町内で連携は取れていますか。
 - ・個人情報保護法により、あまり入っていけない。
- 3：町内会との対応はどうですか
 - ・祭りの時だけ、何故か子供が集まってくる。お小遣いがもらえるので参加者は多い。出費がかかる。

- ・マンションは企業が会費を払ってくれるので心配はない。
- ・周辺で祭りにうるさい人は、町内会に入っていない人が多い。
- ・ラジオ体操をやっている所も子供が少ない。

4：学校との関わりはどうか。

- ・放課後サポートで月2回程度、5～6年生を対象にやっている。
- ・民生委員の定例会で、小学校長、中学校長と話をして、その中で弁当がない子供がいたりして対応がとれない、との事であった。
- ・交通安全も月2回程度やっている。

5：子ども食堂は何かありますか。

- ・子ども食堂は町場でやっている。
- ・江別はお寺でやっている。
- ・食堂があっても全体が利用できるとは限らない。
- ・ボランティアの範囲でやるので難しい。

第18グループ

- ・登別市：民生委員が学校に出向いて子供達の相談にのっている。学校行事は民生委員全員に通知が来て出席等する。民生委員に対して、非常にやりやすく情報を出してくれている。
- ・室蘭市：市内の子育てサロンの数が減ってきた。市の中心部に子育てサロンが新築されたためだが、数が減るのは少し寂しい。
- ・全体：子供達への声かけ等を出来ない。変質者と見られる。
- ・自治会との連携で子育て支援をしていくといいのでは。
- ・子育てから話が高齢者の方に移ってしまい。

第19グループ

○テーマ1「子どもたちの身近なおとなとなり、地域の子育て応援団となるために」

◆登校時の見守り—どこの地域でもされている。

- ・妹背牛町：交通指導。4月の入学時、5日。3人位のグループで。地域のパトロール、週1回—ごみ拾い4～10月まで。10名位の参加がある。学校行事の参加。夏休みラジオ体操の参加。
- ・七飯町：入学時から1週間位。小学校4校—111名の入学。お揃いのジャンパーを着て見守りをしている。小学校1年生を対象に豆まきの手伝い。鬼の恰好をして行く。
- ・興部町：年2回5～10月、5日間交通指導。学校訪問、年1回。小学校2校、中学校1校。学校、保育所、幼稚園の訪問。
- ・美幌町：児童委員会のグループ（全体の中から）。行事、学校訪問、子ども食堂—子供は無料、大人200円、500円。子供預かり2時間—行事がある度にボランティアで行く。
- ・東神楽町：春年1回、小、中学校の訪問。親子部会—園外保育の時、お手伝いに行く。（動物園とかのボランティア）
- ・美瑛町：交通指導、月2名ずつ交代で行っている。学校行事の参加。妊娠

5ヵ月の時、保健センターに健診に来た時に合わせて、面談（民児委員と）させてもらって、情報の交換をしている（心配事等を聞く）。

第20グループ

◆各地の活動の様子

- ・栗山町：2ヶ月に1回、民児協。
- ・七飯町：子育て支援センターの活動に参加。もちつき、運動会、節分の豆まき。学校訪問。不登校、いじめはないか。学校の運動会、学芸会、入学式、卒業式、年1回。
- ・興部町：4000人。小2、中1、学校訪問。登下校の見守り。声かけ、春と秋、1週間。給食を子どもと一緒に。
- ・美幌町：1万9600。民児協56名。3部会毎に主任児童委員1人、6人の児童委員で、計21名の児童委員会を構成。独自の年間活動計画をもとに活動。学校訪問、始業式、終業式の見守り。
- ・栗山町：学校から〇〇の事情の子がいるので、声かけ。
- ・東川町：学校訪問、声かけ、見守り、学校行事の参加。子供の問題については主任児童委員が関わるので、他の児童委員は関わらない。託児の援助。
- ・栗山町：不登校、いじめの対応は基本的には学校が対応。児童委員としては声かけ。見守る取り組み。学校運営協議会。民児協、警察、自治会 etc. でいじめ、不登校の実態の報告はある。
- ・七飯町：不審者情報は担当に連絡がある。
- ・栗山町：4000人切って、子供の数も減っている。その中でも実際にいる。
- ・東川町：子育て支援に関わっている。子ども食堂一貧困の子のイメージがあってやめた。
- ・美幌町：子ども食堂、町内3ヵ所、規模が拡大している。

第21グループ

- ・実践事例として東川町から「子ども食堂」の取り組みがあった。参加者の方が特に興味深く聞き入っていた。内容については東川町から発表する。
- ・学校側からの情報提供に限りがあり、行政も含めて組織体が大きな壁になっているケースがあるのでは？地域（児童委員）の方々が支援する体制が必要ではあるが？
- ・地域が育てる環境はなくなっている訳ではないが、国が制限している個人情報支障になっている場合がある。
- ・関係機関の連携が大切ではあるが、地域との情報が一方通行のケースが見受けられる。

第2分散会（市主任児童委員）グループ協議記録概要

司会者 長谷川 洋 子 氏（石狩市民児協主任児童委員）

助言者 家 村 昭 矩 氏（函館短期大学保育学科教授）

第1グループ

○テーマ3「課題を抱える親子を早期に発見し、つなぎ、支えるために」

- ◆問題を抱えている家庭をどうやって見つけるか。声を聞き取るか。
- ・国際結婚した娘が子供と祖母の家に転がりこんでくる。全く外に出ない。誰とも接触できないので困っている。ケース会議を開くも、1度海外に戻ったので、児相からも警察からも私達の仕事ではないと言われ困っている。病院も隠れて行っている。
- ・他の地域は、すぐ児相、警察が動いてくれる。地域差があるよう。児相に強く訴えてみた方が良い。
- ・乳幼児健診の時に、主任児童委員の仕事をアピールしている。
- ・金券もダメ（図書券500円）。菌がうつるからと行政からストップがかかるが、困りごとがないか声かけをする。
- ・児童名簿、住基カードを主任児童委員は持っていない。
- ・学校側は個人情報なので教えてくれない。
- ・問題がある家庭のみ作る事ができる。地域で生まれた子は分かり、新生児に絵本を配った後は受領証をもらう。引き継ぎもしない等、徹底している地域もあった。
- ・民生委員は踏み込む事はできない。基本見守り。無力感を感じる事も1人では解決できない。各関係に繋ぐ。みんなで情報を共有する事が大切。「つげ口するボランティア！」と思っている。近所の口うるさいおじさんおばさんでいよう！！地域によって、警察、児相、行政の対応も違う。

第2グループ

○テーマ4「児童委員制度やその活動への理解を促進するために」

- ・北見市：赤ちゃん訪問。2人目以降は保健師がおみやげを持って行く。（50個）1人で行く。
- ・小樽市：赤ちゃん訪問なし→実施予定へ。高齢者への対応が多い。入学式等は出席。
- ・釧路市：年2回学校訪問。危険な場所の見守り活動。野生動物対応大変。
- ・函館市：小学校での交通指導。2回下校指導（メールで連絡）。マップー福祉センターで会議。ケース会議について。ケース会議を初めて実施。小学校の校長先生との連携の難しさある。
- ・苫小牧市：小中、1つの学級で子供達の問題はあまりない。街頭指導している。
- ・江別市：10年前より訪問（幼児）。協賛金を出している企業有り。学校の見守り活動。子育てサロン。8月子育て包括センター設立。世代支援。
- ・旭川市：子育てサロン月1回実施。年10,000円位。地域ハザードマップ

—SOS NETWORK。

「子供居場所」のあり方 <子供110番>

- ・学校の統廃合についての懸念について
- ・小樽と函館で世帯調査をしている。
- ・名刺を作っている所が多くてびっくりしました。

第3グループ

◆日頃の活動について

- ・旭川市：絵本配布（2ヶ月）受領証をいただくことで訪問拒否を防ぐ。保護者を育てましょう！！ 地域にどういう方がいるか、発見、情報交換。出生届の時に連絡先、電話番号。市から名簿をいただく。H23～。赤ちゃん訪問 孤立しないように、繋がりを地域に持てるように。細やかな情報を集められる。保健師さんとの情報共有。
- ・北見市：連絡して訪問。家の中を確認（2人目以降）赤ちゃん訪問。1時間位話を聞くことも。託児→ママさんリフレッシュ事業。1回4時間3歳未満。各自保育園に予約。
- ・恵庭市：ブックスタートを最初に始める（ボランティアの人たちで賄っている）。市が情報開示を渋る。
- ・小樽市：学校訪問（5、6月）学校との情報交換（ネグレクト他）はあるが、地域からはあまりない。通学路の見守り。危険な所、市に報告。
※主任児童委員の活動の必要性（役割）の認知度は違う。教頭会や行政とのコンタクトで積極的に。市長との懇話会。ケース会議でのアピール。
- ・江別市：生後3ヶ月絵本2冊と企業からのプレゼントを訪問配布。赤ちゃん訪問。緊急サポート、ファミリーセンター、お試し券プレゼント。訪問して家の状況を見る。市からの封書で案内。遊びの広場（就学前対象）近くの会館で。立ち上げて10年。主任児と民生委で。母親の心ケア優先。母親同士の交流。
- ・函館市：学校訪問、地区の見守り。
- ・苫小牧市：学校訪問、地区の見守り。児童センター行事のお手伝い。
- ・活動が多くなると依頼されることも多くなる。基本は見守り。

第4グループ

- ・地域ごとの差はあれども、学校訪問、地区内の家庭への赤ちゃん訪問。（新生児）
- ・学校との連携の大切さ。（春の学校訪問）
- ・情報共有の大切さ、継続が力、と知った。
- ・新生児の訪問の際に絵本を贈本。
- ・市によっては企業スポンサーがついて、本以外にゴミ袋やミルクなどのプレゼントも実施。（保健師さんとの連携）
- ・転入された家庭訪問している場合も有り。（市の要請）
- ・公開参観日や学芸会など、学校行事へ参加して、先生達との繋がりを持つ。市では情報共有がしやすい様子。

- ・役所の子育て(子ども)支援課に伺い、自ら情報を開示して頂くケースも有り。
- ・児童委員だけの部会等の開催での情報共有。

第5グループ

○テーマ1「子どもたちの身近なおとなとなり、地域の子育て応援団となるために」

- ◆各地区で行っている活動内容について情報交換。
 - ・赤ちゃん訪問を主任児童委員が実施している地区の実例。
 - ・訪問拒否等がないような工夫。
 - ・旭川市：地元の作家さんの絵本を持って生後2ヶ月の訪問をしている。その時に受領証にサインをいただき市へ戻す。
 - ・その他の地区もポストイングする際に何かを差し上げる。
 - ・エサを与える（表現が悪くてすみません）と接触しやすくなる。
 - ・年々、訪問数、減少あり。（拒否、お仕事している等）
 - ・石狩市：親子CAFÉを運営していて主任児童委員を始めた方がいる。初年度は200万円の補助金をもらって始めた。木のおもちゃ等を購入し、現在はお茶代250円をいただいて運営。子供が自由に遊べる場所。（民間のCAFÉのように気を使わなくて○）母親同士の繋がりが生まれ、レンタルBOXを利用して作品発表の場にもなり、やりがいがある。そこからスタッフになるケースも。しかし、民児協との繋がりは広がっていかない。
 - ・学校で読み聞かせボランティアを行っていくことで、顔を覚えてもらい、地域の繋がりが深まっていく。学校との関わりが難しい問題も。

第6グループ

- ・旭川市：うぶ声活動。生後1、2ヶ月内に絵本、パンフレット等を届けながら、お母さん、子供の様子を見る。ケースー2人目の男の子。7歳、4歳、シングルマザー。ネグレクトの疑い、7歳の子は施設。
- ・函館市：学校の行事に参加。いじめ、不登校の相談はなし。
- ・小樽市：小中3校が現在は小学校1校。学校から相談協力の依頼あり。
- ・名寄市：赤ちゃんに一升餅（役所の依頼があれば）。名前、メールアドレス等を入れたファイルを配った。
- ・北見市：子育て支援課との連携。予防注射の用紙等を届ける。
- ・釧路市：主任児童委員活動。定例会、民生委員さんより情報を貰い活動。見守り活動。子供の様子を見る。見守り隊の連携。学校訪問（小中5校）学校との連絡、情報交換が出来ている。
- ・苫小牧市：地域でウォーキングバス、老人クラブ、役員さんとか一緒に歩いて学校へ行く。心の教室。子供の悩み等を聞く。町内会と合体して、お祭り、ラジオ体操。
- ・北斗市：コミュニティスクール。コーディネーター。空き教室も。週2回ほど。学期毎に小中校長、教頭、生徒指導。
- ・子育てアプリ。子供の生年月日を登録すると予防注射などを知らせてくれる。

第7グループ

◆子ども食堂

- ・北見市：2ヶ月に1度、主任児童委員が集まり情報交換している。
- ・小樽市：子ども食堂をやりたいと思っているが、なかなか進まない。
- ・釧路市：大学生等を交えて行われている。(月1回)主任児童委員の認知は地域で活動しつつ、顔を覚えてもらう。
- ・名寄市：大学の先生と生徒とボランティア。手が足りず、主任児童委員に声が掛かる。
- ・苫小牧市：個人でいくつかある。お手伝いの声が掛かるが今はまず見学。フードバンクの活用。娘さんが藤沢市でお寺を借り、大学生だけで開いている(月2回)。資金はクラウドファンディング。
- ・室蘭市：社協の建物で始まり、協賛金が集まる。
- ・北斗市：子ども食堂はない。委員が8名しかいない。
- ・函館市：3カ所位民間でやっている。市の関心が児童福祉に向いていないと感じる。
- ・学校の運協CSに入る。
- ・地域や学校と情報共有するように頑張る！
- ・どうも民生委員のイメージが悪い。
- ・北見市：“ななかまど”民生委員さんだけの冊子。お互いの活動が知れる。
- ・子ども食堂は居場所になっているか。

第8グループ

○テーマ5「グループで協議、情報交換したい事項」

- ・函館市：ケース会議等は参加した事がない(問題がない)。
- ・小樽市：ケース会議等は参加した事がない(必要とされていないのかもしれない)。
- ・帯広市：ケース会議は3～4件あった。見守りだけ、学校が情報提供しているのを嫌う。
- ・ケース会議に参加した事がない。要請がない。
- ・ケース会議に参加したが、情報提供と見守りだけ。
- ・民生委員の役割に疑問を感じる。「見守りだけ」
- ・ケース会議のその後の報告がない。
- ・市の担当者によっては、報告もある。
- ・稚内市：17年間前に市に社協を通して問題児童を支援したいと要請した。毎月1回、市、児相(旭川児相の稚内分室)、主任児童委員、相談会を開催。横の繋がりがしっかりある。学校、子育て支援ネットワークを開催するようになった。現在68人支援している。
- ・問題のある子を主任児童委員は把握している。
- ・学校と行政は密接な連携をしている。
- ・稚内市：(藤本氏 主任児童委員25年)
民生委員からの情報提供もあり、主任児童委員は問題児童をすべて把

握している。(当初個人開催) 子ども食堂の開催2年7ヶ月。現在、毎月1回土曜日に4ヵ所で地域食堂として開催。(高校生まで無料、大人300円) 市からの補助金99,000円。支援児童は68人。1会場で先月、108人来た。調理者6人で。(調理師免許を5人が持っている)

- ・主任児童委員は学童保育と仲良くしたら良い！(情報がより早く正確に把握できる)
- ・帯広市:(工藤さん個人で)親子劇場を開催している(各小学校で)。当初は1,000名の会員がいたが、現在は減少している。
- ・行動力のある主任児童委員は行動を起こす。それが大きく実になる。継続に、全体活動に繋がる。

第9グループ

○テーマ5「グループで協議、情報交換したい事項」

- ・各地区の活動状況を知りたい。
- ・地域によって活動量、内容が違う。
- ・ほとんど活動していない市もあれば、忙しくて自分の時間が無いくらいの活動をしている市もある。
- ・主任児童委員になる人材選び、探しが大変だ。
- ・色々な活動内容を聞く事が出来て、とても参考になった。

第10グループ

◆最近気になること。

- ・ケース会議が増えた(今年に入ってから毎月1件という地域も)。
- ・学校訪問でオープンに話してくれる所、オブラートに包まれている所有り。
- ・地域の見守りが大事。赤ちゃん訪問→小さい頃から見ている子。顔つなぎ。担当民生委員に情報をつなぐ。
- ・問題のある家庭は引っ越しが多い。(繰り返す)
- ・情報共有が大変。どうしたらよいか。(不安)
- ・親の問題。学校へ行く必要を感じていない。小学校に行く時になって、どこにも繋がっていないことが発覚。学校の先生が対応。
- ・支援学級に行く子が増えている→情報(発達障害など知られるようになった)

◆ケース会議—大事だけど、もやもやする。

- ・主任児童委員も参加する機会が増えた(主任児童委員も呼ばれるようになった)。
- ・その後の報告がある所とない所がある。(遅い)
- ・会議をしても結論は「見守って下さい」
- ・児童相談所の人員不足—「分院」一時保護できない。
- ・主任児童委員だけでなく、地域の民生委員も一緒に行く必要有り。
- ・1回だけでなく2回目、3回目も必要では?
- ・2回目のケース会議がある場合は、よく見守ったり情報を得たりできる。
- ・子供の様子を見てくれるようになる。(見守りする際に、何もなくて行くのは大変)

◆スマホ、SNSの問題

- ・中学生のほとんどが持っている。(小6の半数) ネットゲームの問題、抜けられない。
- ・親も地域の大人も知るべき<スマホの安全教室>
- ・幼稚園の親の世代から問題などを勉強すべき。幼稚園の子でもスマホを使う。
- ・プラスの面もある。使い方に問題がある。

◆親を育てる。

- ・親が学校へ行く必要性を感じない。
- ・子育てが変わってきた。
- ・働く親が増えてきた。
- ・母子家庭の家も増えた。
- ・生活保護を外れた母子家庭(祖父母と同居)
- ・お母さんのうつ病や自閉的(人づきあい、ネグレクト)多い。
- ・お母さんがちょっとでも気分転換できる場所。
- ・お母さんが息を抜ける場所を作る活動をしている地域もできている。(世話焼き隊)

第11グループ

◆学校との関わり

- ・函館市：学校PTA活動、野球クラブ監督等、子供達と関わりながら子供を見守る事が出来た。学校の便りで近くの小中学校の行事に参加し、顔を知ってもらっている。個人情報厳しい中、小中のケースワークも減少。11期活動中で1番辛いケースが、見守っていた子が鑑別所に入った事。
- ・小樽市：小中保は1校ずつ。活動は3年位の中で問題ある子の顔を見る機会がない。見守りというのは？どういう形で見守り活動をしているのか？ケース会議では主任児童委員の参加要請がない。
- ・帯広市：小中保1校ずつ。3年後には小中一貫校になる予定。少年野球の運営等。コミュニティーセンターには子供たちがよく集まる。小学生の運動会の賞状を渡すのは民生委員の仕事。子供と触れ合えて良い。最近の問題点は、野球クラブの人数が多く2つに分かれ、いじめが発生。親が原因らしい。親が不平不満を言う。最近支援会議がない。支援会議参加後の回答がない。
- ・苫小牧市：小1、中2、児童館1、苫小牧はドーナツ現象で街中には子供が少ない。1つの校庭の中に小中を建てている。中学評議員をしているので、学校に入りやすい。訪問したいができない環境にあり、保健福祉課に相談すると、「いいです。遠くから見守っていて下さい。」見守りとはどういう事なのか？
- ・美唄市：中学校が街の方の学校と統合。小学校の統合はどうなるのか情報があいまい。赤ちゃん訪問をしている。市の職員(子育て未来課)と。出産の時からどこに子がいるのか分かる。学童訪問。スキヤキ隊(世話をする)民生委員でやっている。
- ・深川市：学校訪問は民生委員交替時に行っている。小中3校、みんなで学校

訪問している。学校訪問は毎年行っている地域もある。民協の会議に学校の先生を招いて話をしてもらっている（帯広）年2回。

- ・美 唄 市：赤ちゃん訪問を長く続けている。繋がりが感じられ良い活動だと思う。

○テーマ4「児童委員制度やその活動への理解を促進するために」

- ・後任を自らが見つけなければならないのは慣例なのでしょうか？

第12グループ

○テーマ2「子育て、子育てを応援する地域づくりを進めるために」

- ・帯 広 市：保育士をしていた関係で子供達のことは良く分かっている。在任4ヵ月でまだ民生委員については経験がない。
- ・深 川 市：1度だけケース会議に参加。どこまで踏み込んでいいのか分からない。学校の統合による不登校。親が「これでいい」と言うのなら、そこで終わり。
- ・函 館 市：PTA会長として学校に顔を出すことが多い。校長からTEL。引越した後、中2の生徒が1週間登校してこない。兄のもとで暮らしていた。今は登校している。
- ・苫小牧市：学校評議員として参加。町内会行事に参加。中学校の教員とのオープンな会議。子ども食堂の講演会。主任児童委員+民生委員。児相の開設（署名活動）10年以上。議員さんを巻き込んで。開設の説明会に一般の人の参加者（ボランティア）が少なかった。

◆子供との信頼関係を築くために。

- ・交通安全の見守り。

◆子ども食堂

- ・食材の調達
- ・子供だけでなくお年寄りも集まってくる。

◆主任児童委員としての権限はどこまでか？

- ・放課後学習支援に参加している。
- ・学校との絡みの難しさ。
- ・登校支援

◆赤ちゃん訪問

- ・7ヶ月で訪問。煮詰まっているお母さん。

◆児相との関わり

- ・専門職がない。守秘義務の問題。
- ・函 館 市：赤ちゃん。市役所に名簿の閲覧に行ける。

第13グループ

○テーマ5「グループで協議、情報交換したい事項」

◆いじめ、不登校

- ・学校はオープンにしたい？出たくない？—学校との信頼関係を作りあげるのには時間がかかる。

- ・情報が来ない。
- ・良い関係を築く
- ・案内がなくても学校に出向く。顔を見せる。校長、教頭だけでなく、一般の先生とも交流できたらいい。民児委員の認知度を高める活動。ベスト、腕章、合唱団。
- ・学校、市、児相、警察、人権擁護委員、民児協。
- ・中学校区連絡協議会ー小中校長、教頭、生徒指導の先生、民児協、町内会、保護司
- ・民生委員である寺の住職→てらこや
- ・子供の居場所づくり
- ・来て欲しい子に来てもらえない。
- ・基調講演の話ではないが、アプローチし続ける事が大切。

第14グループ

○テーマ5「グループで協議、情報交換したい事項」

◆地域の困りごと

- ・釧路市：コミュニティスクールから虐待が発覚したが、メンバーには知らされず、今まで平和だったのに、報道されてしまった。
- ・小樽市：学校訪問して（学期ごと）学校の困りごとを聞いてサポートする。小さい学校は地域のサポートがあるが、大きな学校は。
- ・苫小牧市：生活保護家庭の様子。母は働いていないが金銭を子に与えているので自由に使う。お金目当てに友達が。
- ・北見市：学校の見守りをしているが、地域によってかなりの差がある。個人情報公開する学校もあれば、何もないと口を閉ざす学校もある。先生は教育に関する危機感がある。子供の危機感、親の危機感なし。
- ・富良野市：田舎でも不登校あり。小→中と卒業しても行けない。兄が行けないので弟も態度心配。
- ・美唄市：赤ちゃん訪問を12人の主任さんが交替で行っている。市の保健師も虐待チェック。
- ・里親の事について一虐待するくらいなら里親に出すという。

第3分散会（町村主任児童委員）グループ協議記録概要

司会者 袴田万紀子氏（当別町民児協主任児童委員）

助言者 阿部康子氏（向陽学院院長）

第1グループ

○テーマ5「グループで協議、情報交換したい事項」

- ・奈井江町：子支援の手伝い、子ども会畑、年1回学校訪問、挨拶運動、町内巡回。
- ・釧路市：学校訪問（小中高）、7ヵ月健診、読み聞かせ、不登校支援。
- ・沼田町：学校、施設見学。高齢者対応が多い。
- ・音更町：校内ケース会議（保護者はいない）—継続性がない。報告がない。
- ・豊富町：年1回学校訪問、行事、子育て支援。
- ・中富良野町：必要なケース会議、こども園、放課後広場、月1回共有（民生委員）、サロン（行政施設）。
- ・斜里町：引きこもり予防（食事会）。
- ・学校訪問、子支援。
- ・子供の遊び場所、子供がいない。子供がうるさい。
- ・運動会、花火がうるさい。
- ・学校訪問—情報開示するも報告なし。
- ・地域にいる強み。
- ・民生委員の高齢化。世代間ギャップ。
- ・SSW、SCで不登校支援あり。良い。
- ・中富良野町の支援体制が良い。（三世代、活動、喫茶）
- ・行ってみたいと思える場—引きこもらないこと。
- ・とにかく、繋がり大事。お節介で！本気で！
- ・相談できない人がいる。
- ・私達は期待せず、諦めない。気にはしても苦にはしない。
- ・イライラ、犯罪、自殺予防

第2グループ

○テーマ4「児童委員制度やその活動への理解を促進するために」

◆各町の情報交換

- ・当別町：主任児童委員3名。ボランティア活動をしている。学童保育等で子供達と一緒にゼリーや食事作り。学校から頼まれ、家庭課の授業を支援している。子供の実態や状況を知る良い機会。
- ・豊富町：学校の行事の案内が来ての参加。ケース会議への参加。マナー給食の手伝い。夏祭りの協力。民生児童委員で学童保育でのバザーを開催。赤ちゃん抱っこも保健師さんと協力してやっていく。
- ・小清水町：保育所の手伝いをしながら、子供が楽しく集団生活を送れるような役割を担っている。授業の中で、中学3年生の手伝いに乳幼児を3人位連れていく。グレーゾン、障がいを持っているお母さ

ん達の会を月1回開催している。

- ・新得町：人口が少なくお互いに顔が見える。
- ・森町：平和である。学校訪問やケース会議への参加。
- ・奈井江町：支援センターでの悩み相談。行事への参加。
- ・中標津町：学校訪問、お祭りの夜間巡回。赤ちゃん交流への参加等、行事への参加を通して見守り支援をしている。母子家庭が多く、ネグレクトの家庭をどう支援していくか模索している。
- ・阿部先生：赤ちゃんが生まれた時、家庭に入ってはどうか。保健師さんについて行くとか。
- ・その他：家庭に入っていくのは難しい。情報提供は役場から入ってこない。定例会で情報交換をしている。主任児童委員はつなぎの役目。何かあれば役場へ話を持っていく。

第3グループ

◆子供の居場所・放課後児童クラブ

- ・民間では苦情がある。
- ・学校とは違った顔が見ることができる。素の自分が出る。学校と連携が出来ている—先生にもよる。学童がない日、学童後、ファミリーサポートセンター。
- ・若いお母さん、一人親が多い。こちらは心配で見ているが相談には来ない（本人は困っていない様だ）。
- ・問題があっても、介入が難しい。（鳴き声が聞こえて警察に通報。虐待ではなく、大ごとになってしまった。通報したことによって、お母さんが精神的に参ってしまった）
- ・講演でもあったように、居場所があれば子供達も変わる。
- ・赤ちゃん交流があるところもある（中学3年生）。10年以上続いている。お母さんにも良い影響があり、顔が輝いていた。自己肯定感が生まれる。

◆主任児童委員の認知度が少ない。

- ・入学式、卒業式の来賓に呼ばれる町もある。年1回学校訪問、挨拶。
- ・フェイスブック、SNSにアップしている。
- ・健診、離乳食教室に行って、顔見知りになるようにしている。
- ・登下校の様子。絵本の読み聴かせ。
- ・個人情報の取り扱い—役所が教えてくれない。情報が入らない。
- ・住民票台帳を渡す町もある。
- ・1年で役場に返却する。
- ・主任児童委員には高齢者の情報がない町もある。
- ・情報を貰う為に児童委員の認知を高める。
- ・情報を色々な機関と共有していきたい。

第4グループ

◆地域の現状

- ・幕別町：民生委員64～65名。主任児童委員は2名。

月1回(1日)、月3回(半日)学校訪問、市街地4名。幼稚園小中、19日(毎月)に必ず学校へ行く。決まっていなければ、なかなか行けない。最後は校長室でいじめや不登校について話す。個人名まで公表してくれるが、主任児童委員として何かはできない。見守りぐらいしかできない。歯がゆいところ。これでいいのかと思う。

- ・美幌町：民生委員60名、児童委員18名。主任児童3名。幼稚園、小中学校訪問。交通安全も含めて学校前で始終業式等も。ケース会議(年1回)。警察、児相、保健師さん。問題になった子供がその後どうなったのか分からない。どこまで児童委員が役立っているのかは疑問。学童で関わっている。問題がありそうな場合はみんなで相談。
- ・遠軽町：46名。主任1名。小4、中2。入卒運動会などのイベントはなるべく順番で回っている。他、民生児童。ケース会議。親(保健師だったので親のことで呼ばれるようになっている)1年位前に3つの地域の主任児童委員4人で連絡会議を立ち上げた。年2回。教育相談員も来てもらっている。教育委員会はちょっと敷居が高い。本のプレゼント(4カ月の赤ちゃんへ)赤ちゃんの健診時。

◆ケース会議について

- ・解決しているのか分からない。
- ・主任児童委員一何をやっているの?と言われる。何か発表できるのかと言われる。
- ・地域は持っていないが、主任が付いているだけ。
- ・主任は学校に行って、先生たちと触れ合って話をしたり、赤ちゃん、親の見守りで良いのではないか。
- ・顔を売る事が大事!
- ・前の主任児童委員が何をしていたのかと思っていたが、見守りをする事もなかなか大変。
- ・児童部会を立ち上げ、研修を行っている(民生委員にも呼び掛けた)。
- ・いじめについて、スマホについて等や事例の発表(不登校等)。
- ・妹背牛町：小中1校、172名(児童数)。保育園や小学校へ読み聞かせに行っている(月1回)。子供達には顔を覚えてもらっている(登下校の見守りも)週1回。2人でやって連絡しあっている。地域と教育委員会、学校でコミュニティスクールをやっている(年2回)。それに児童委員も参加してもらっている。地域で子供を守りましょう!とやっている。小学校とは良い関係を築いている。
- ・学校は先生方が変わるので、良い関係を作るのがなかなか大変。
- ・校長より教頭と仲良くした方がいい。
- ・最近は昔よりハードルが低くなってきているように思う。
- ・例会の場所を小学校で行っている(顔を覚えてもらいやすい)。
- ・悩み~民生委員も若くなっているが、仕事などで例会に揃わない。夜に定例会をやっているところや昼間じゃなければ集まらないところもある。
- ・75歳以上の独居の方へ誕生日プレゼント(手作りの藁で作った置物)。
- ・主任児童委員だからと言って、児童だけにならず、老人の方にも関わっているのではないか。

第5グループ

○テーマ4「児童委員制度やその活動への理解を促進するために」

- ・児童委員と主任児童委員の関係性。
- ・学校への定期訪問、部会設置。児童部会の設置の中に、主任児童委員が加わり、研修、視察等の活動を共に行う事で相互理解が得られてきている。
- ・美幌町：託児ボランティア→児童対応に対する児童委員の男女差については、未満児等への対応も男性委員が積極的に関わってくれている。
- ◆部会や少人数の話の中で。
 - ・会長さんが替わった事によって全体的な活動が現れ、これまで個人個人の活動だったが、民生委員活動が活性化。個人情報扱いについて、そこまで踏み込みたくない。
 - ・東神楽町：人口増加に伴い、児童虐待が増えてきている。
 - ・児童委員と主任児童委員。主任児童委員が中心で部報を年4回発刊している。
 - ・気張らず無理せず出来る事から。今日の話の中から自分の地域に持ち帰れるものがあれば。

第6グループ

○テーマ2「子育て、子育てを応援する地域づくりを進めるために」

- ・美幌町：子ども食堂（昔）茶店3カ所。月1回、スタッフ10～15名。最初30名、最高111名（8才以下無料。誰でもOK。高齢者は200円。支援する100人の会ができた（1年位前から始めた）。自治体、民生委員他がスタッフ。夜5～7時（夕食）アレルギー対応している。
- ・池田町：月1回、子ども食堂。5、6、7月。3回目。一口千円で資金を募る。スタッフ20名ボランティア。予約を取る。子供の居場所作り。3年前から。来てもらうにはどうしたらいいかが課題。
- ◆北海道は子ども食堂の比率が高い。
 - ・湧別町：食堂カレー月2回、水曜日。1食300円。社協が中心でお年寄り、赤ちゃん連れママさんが集まって3年になる。
 - ・比布町：学校一つ。20名×6＝120名学校。町が無料塾（旭川から学生が来る）。学校訪問はその都度行っている（卒入運動会他）。支援学級が充実している。お年寄り対策が急務。サロン活動が多い。
 - ・池田町：ふまねっと発祥。お年寄りが元気なので、今度は子供に、というようになってきている様だ。
 - ・猿払村：学童支援11年（保育所の中にある）。ひとり親の子は学習が遅れがち。40人定員（3人で支援している）。6時まで。現在26名。
 - ・学童支援で隔離してしまうことは、子供にとって、周りの子供達にとって良いのか悪いのかと考えてしまう。
 - ・積丹町：人口が少ない為、特に問題はない。

第7グループ

○テーマ2「子育て、子育てを応援する地域づくりを進めるために」

- ・斜里町：主任児童委員って何をするの？初任者研修もない。組織作りに工夫が必要。主任だけ（民生委）の研修会をしてほしい。地域の情報がなかなか入ってこない。主任児の組織作り。学校訪問—校長、教頭等では本音がなかなか聞けない。
- ・平取町：塾を作って希望者は行ける。教育委員会と一緒にいく。行政が一番情報が入る。
- ・要保護児童対策協議会。教育委員会→福祉課。キーパーソン。会議。行政主導で問題の親子も含め。ケース。課題のある家庭。見守り。児童委員との情報共有はしていない→した方がよい。
- ・定例会の中でどこまで情報を流すか。守秘義務の問題。
- ・行政との連携が取れている。「こういう人がいるので見てきてくれない？」
- ・雨竜町：郵便配達をしていた関係の中で、色々な情報が入りやすい。
- ・湧別町：ケース会議にも呼ばれないことがあった（ネグレクトの子供）。
- ・何をすればいいのかわからない。42人中3人
- ・定例会では地区会議（高齢者の問題等しか出ない）
- ・学校行事に行く程度（入学式、卒業式とか）
- ・福祉課の担当職員にもよる。
- ・ケース会議は開かれても、その結果の報告がない。
- ・学校との情報交換をし、パイプを強くすることによって、お互いに助けあえるのではないか？学校だけでは抱えきれない問題もあるはず。
- ・浜頓別町：こども園（幼保）小中高校、学校訪問。全児童委主任児童で行う。
- ・東川町：家庭訪問を拒否された場合。赤ちゃん訪問。「来ないでくれ」が1件ある。健診にも顔を出さない。民協のチラシ、名刺を入れてきたが。保健師さんが先。
- ・4ヵ月、広告から。おむつ、いるかいらないか。
- ・主任児が何をどこまでやらなければならないのか？まずはコーディネーター。
- ・どこに繋いだらいいか、の役割。悩み相談。
- ・行政が誰にしてもらおうのか、何をしてもらいたいのか、人材を見極めてほしい。主任児童委を依頼すべきでは。

第4 分散会（児童委員・主任児童委員合同）グループ協議記録概要

司会者 吉 田 祐美子 氏（三笠市民児協主任児童委員）
助言者 多 田 傳 生 氏（旭川育児院院長）

第1グループ

○テーマ2「子育てを応援する地域づくりを進めるために」

○テーマ3「課題を抱える親子を早期に発見し、つなぎ、支えるために」

- ・子供のSOSが大人と違って自分から発せられない。その信号をどうやって見つけたらいいのか。
- ・子ども食堂のチラシを配る。
- ・学校との密な連携—子供について詳しく聞ける。
- ・個人情報の関係で、函館市では民児連合会事業として、住基台帳の閲覧をしている地域もある。
- ・情報の共有。
- ・個人情報を共有して連携しないとまらない。
- ・各地域の事例。
- ・保健推進委員さんと一緒に行動してみる。

第2グループ

○テーマ5「グループで協議、情報交換したい事項」

- ◆地域で関わっている事を発表してもらう。
 - ・8ヵ月の子が地域で亡くなった。遺族と会うこともない。
 - ・地域の子供との関わりがなく不安。地域の子供が分からない。
 - ・ケース会議に出て、各機関との連携を図る。
 - ・学校の地域連携の会議で問題の発見。
 - ・主任児童委員と児童委員との連携。
 - ・民生委員の活動だけでは物足りない。13:00～17:00（水曜日除く）、第2、第4日曜日10:00～15:00、居場所づくり。地域の協力者、民生委員。女子寮を借りて風呂の開設。毎月15、6名～20名。学校に案内文を頼んで周知。活動10年。
 - ・大学の学生が活動する子ども食堂に主任児童委員参加。
 - ・それぞれの地域で餅つき、クリスマス会等、子供と関わる行事は多く行われている。
 - ・活動を頑張りすぎて、心が折れそう。出来る事をやる。
 - ・ボランティアの制約を感じる事がある。
 - ・4ヵ月で絵本、その他を持って家庭を訪問。児童委員+主任児童委員。子供の情報が貰えるので良い。しかし、絵本を届ける事業をやっているが、その後の繋がりがなかなか無い。
 - ・民生委員アンケート。妊婦さんに母子手帳を渡す時に渡してもらう。民生委員が訪ねてもいいですか、というアンケート。
 - ・学童保育の手伝い、本を読む。学校での顔と学童での顔は違う。子供の色々な

- 顔を見る事が出来る良い機会。
- ・外国の学生訪問の時、書道、折り紙等交流。
- ・民生委員は繋ぐ、繋げる役。責任感を持って活動するが、繋げた後の扱いが雑だったりすると残念。
- ・友愛訪問。子供達と民生委員が独居老人を訪問。

第3グループ

○テーマ1「子どもたちの身近なおとなとなり、地域の子育て応援団となるために」

◆子供達との触れ合い（子ども食堂）で子供が変われる事からテーマを選びたい。

- ・旭川市：子供との触れ合いで変われる事に感動。子ども食堂。旭川大学の先生が始めた（永山地区他）。関わりたいと思っている。子供0円 大人100円。農家の出している市場の残りを持って来る事が出来る。
- ・新十津川町：子ども食堂をボランティアで運営。農家が多く。
- ・名寄市：月に一度、名寄短期大学の先生から始まった。民生児童委員もボランティアで参加している。
- ・江別市：酪農学園大学とお寺が一緒になってやっている。
- ・岩見沢市：天理教がやっている。民生の関わりはない。
- ・北斗市：北斗市には子ども食堂はないが、函館にはある。
- ・高齢者の名簿はあるが、子供に関して資料（名簿）がないのでよく分からない事が多い。
- ・子供の情報は市役所側からが「チョット」と言われる。

◆児童票はありますか？

- ・地域で作るように言われた事はあったが、なかなか作れない。
- ・町内会では家庭票があるが、アパート等が入っていない為、児童のことが分からない。
- ・岩見沢市：町内会に会員と準会員がある。街灯料のみも有り。
- ・江別市、新十津川町：全軒、町内会に入っている。
- ・町内会活動の大切さ。
- ・新十津川町：町内会で草取りもある。月1回
- ・夏休みのラジオ体操—大人も当番を決めてやる。（岩見沢市は健康ポイント有り）
- ・毎月のラジオ体操もある。（旭川市、新十津川町）

◆主任児と児童委員との関わり

- ・北斗市：主任児の会議が月に1度有り。見守り家庭を児童委員に相談。一緒に見守り。
- ・新十津川町：主任児、児童委と見守り家庭訪問有り。

◆学校訪問

- ・新十津川町：地域参観日
- ・旭川市：「ぼかぼか」。民生、主任とやっている。日中（課外授業）中学生、小学生（月に1回）が遊ぶ企画。中学生は年に1回→社協資金。
- ・岩見沢市：年に1回、学校で定例会がある。

◆登下校見守り

- ・江別市：見守り隊（15名）毎日登下校。子供の様子が分かる。年に1度、

小学校で給食を食べる。昔遊びをする（年に1回）

- ・北 斗 市：放課後児童クラブに訪問。読み聴かせ。
- ・子ども食堂に高齢者も一緒にいる環境があると良い。
- ・場所と資金が問題。
- ・子供の居場所に「子ども食堂」の様な場所があると良い。
- ・岩 見 沢 市：児童館でのボランティア—主任児、児童委員。主任児がイベントを考える。
- ・新十津川町：児童館祭り—民生・児童が中心になってボランティア。部会ごとにお手伝いをする。区民レクリエーション、民生委員もお手伝い。
- ・新十津川町、北斗市：部会有り。
- ・旭川市、岩見沢市：部会無し。（一部部会）

第4グループ

○テーマ1「子どもたちの身近なおとなとなり、地域の子育て応援団となるために」

- ・各々の担当により、活動の内容、名簿の入手について話し合った。
- ・主任児童委員の活動内容が地域により大きく違いがあった。学校訪問について。赤ちゃん訪問について。
- ・情報を得るために学校訪問が必要。主任のみではなく、会長等と訪問した方が良いのでは。
- ・北 斗 市：子育て支援課と一緒に、主任全員で月1回の情報交換。
- ・釧 路 市：主任2名と会長、副会長で学校訪問。民児協全体へ報告して情報共有。
- ・自治会、学校との協力・連携
- ・こども未来課との協力・連携
- ・児童相談書との協力・連携
- ・児童委員としても今後、もっと関心を持って取り組んでいきたいと思う。

第5グループ

○テーマ1「子どもたちの身近なおとなとなり、地域の子育て応援団となるために」

○テーマ2「子育て、子育てを応援する地域づくりを進めるために」

- ・児童委員として、地域の子供達や親達と親密に、なるべく学校活動や地域活動に参加し、特に学校からは様々な情報や家庭、生徒の問題を相談してもらえる様に、数多く先生と話し合いを設けて。事前に。
- ・児童委員をもっとPRしなければならない。市民からはどんな仕事をしているのか分からない、どんな事をしてくれるの、頼りになるの等言われる。
- ・もっと地域の活動に参加し、児童委員が意外と頼りになる事を皆さんに知ってもらって。苦しんでいる家庭や子ども達に手を差し伸べる事が出来る様に、活動をしていきたいと思う。
- ・もっとやりがいの有る児童委員の活動になるように様々な事に参加し、もっと勉強をしていきたいと思う。

第6グループ

○テーマ4「児童委員制度やその活動への理解を促進するために」

◆各地域の現状報告

- ・主任児童委員の年齢について一新任、再任、原則55歳未満はいかがなものか。
- ・岩見沢市：自身の持つ件数60件。相談なし。65歳以上の方への訪問をしている。昨年、孤独死の経験。
- ・函館市：民生生活23年。小、中学校にてケース会議有り。一步下がって見守り。
- ・滝上町：主任児童委員。要対協、年に数回有り。祖母、母まで知っている地域。難しい。
- ・北斗市：(小中高)地域の訪問。訪問後には定例会にて発表。学校より情報提供も有り。
- ・江別市：赤ちゃんいきいき活動(生まれた赤ちゃん宅へ訪問)。民生委員は学校訪問をしなくなった。
- ・当麻町：保育園、幼稚園、小学校、中学校、全て訪問(民生委員と一緒に)
- ・民協の定例会の時間一昼夜、地域によってまちまち。
- ・社協の定例会参加一地域によってまちまち。
- ・生保の名簿ももらえなくなった。(生保の情報交換をしている地域も有り)
- ・児童主任委員一女性が多い。
- ・歳末助け合い一社協との関わり、地域によってまちまち。
- ・民協の中で、各分会に分かれて活動している民協も有り。
- ・要対協とは？
- ・母子、父子の会(社協と主任児童委員コラボ)
- ・学校、幼稚園への入学、卒業、学芸会、体育会、行事への参加も。
- ・不登校、非行の情報も(学校より説明有る地域も)
- ・主任児童委員の多い市は、その中で学習会もやっている。
- ・主任児童委員であっても、関わり方が難しい部分も有り。
- ・主任児童委員の原則55歳は見直した方が良いのでは。成り手がいない。若い人も働いている人が多い。

◆まとめ

- ・それぞれの地域で地域性があり、学びになった。今後の民生委員活動へ生かしたい。

第7グループ

◆子供の居場所

- ・学童保育所立ち上げ時に関わった事がある。1年～3年を対象。今は6年生迄が対象となっている。
- ・周りの大人が良い関係性を作ってくれば良い。
- ・児童館は6年生までは自由に出入りできる。
- ・登録制である所が多かった。
- ・児童館が少ないので携わる子が多いと良い。携わる指導者が少ない予算の問題

- かもしれない。
- ・子ども食堂は組織で行っている。直接は携わっていない。数が増えつつある。これからの発展を見守りたい。
 - ・主任児童委員が学校訪問を担当するようになった。
 - ・主任児童委員がケース会議に参加するようになり、共有することが大切なのだが、どこまで行って良いものか疑問に思いながらの訪問となっている。
 - ・あらゆる機関の者が参加して会議を行っている。
 - ◆フリースクールはあるか。
 - ・ある市は午前2時間のみ、決められた曜日のみで、これで居場所作りになるのかなと思う。
 - ・ある市は月～木常設「ひなたっこ」。児童委員が手伝いに行き、親御さんから心配事等を相談されることがある。
 - ・市町村は財政の違いで補助金等の差があるのでしょうか。
 - ・学童児が宿題をする事で、補助金が出される事があるようだ。

第8グループ

○テーマ5「グループで協議、情報交換したい事項」

◆子育て支援

- ・北広島市：子供達と食事を共に。大曲地区（会館）。民生30人、主任委員10人）全員で繋がり、その後レクリエーション。支援学級との交流一月別に。（実践活動）学習している。シャベリパークー子供の子育ての悩み一月1回交流する（親）。公園の見守り一月1回。保育士さんも参加。教育機関との交流→民生委と先生方との学校現場の話し合い。高齢者支援は積み重ねてきている。荒れていた学校→見廻り→学校の教職員と共に活動。西部地区（お寺でごはん）民生。ここ数年このような活動が行われている。支援学級は学校の中で（野菜の新づけ）。配慮ー難しい事や危険な事はしない。時期ー夏休み、冬休み。注意ー指を切ったりしたら困るので保険は入っている。（行事保険1人28円）
- ・北見市：13民協。1人グループ18人位。学校訪問、児童館祭り。赤ちゃん訪問。予防接種
- ・北広島市：お金がないので、チラシも一部の学年ー今は全体に。保護者の方も誘い。
- ・旭川市：24人。主任でなくても当然。高齢者だけでなく。子育てサロン＝放課後（公民館と共同作業で）遊び場、勉強等の子育ての支援をしている。諦めないで作っている。公民館児童に保険等も。お互いに助け合って→10年かかって少しずつ認識されてきた。民生だけ苦勞するのではなく地域で。
- ・岩見沢市：12グループ。午前中児童館を借りて3歳児中心に親子広場。走り回ったり、親同士での悩み。子育て支援センターの支援有り。親子、兄弟が楽しく過ごしている。
- ・北広島市：このような実践を聞いて私達もやり始めて、今の活動に繋がっている。

- ・岩見沢市；集まってくる子供達が多い時と少ない時がある。
- ・旭川市；継続することにより安定してくるし、必ず長い間の成果が出てくる。
- ・岩見沢市；12児童館（車社会なので、色々な場所に行けるので良い。毎日やっている時もある。）
- ・北広島市；民生—行政との繋がりが必要→実績を積み重ねていく事が大切だと思う（連携）。
- ・江別市；行政、子育て支援センター。中学生との触れ合い授業（中学校をお借りして赤ちゃんと触れ合う）。
- ・苫小牧市；教育委員会、民生、サポーター。町内会—お神輿、盆踊り。子供が少なくて寂しい。みんなで少しでも応援していきたいが減る一方なので羨ましい。民生委員として補佐、子ども神輿→小学生が少ないのででも続けていきたい。子供がいなくて寂しい。
- ・北見市；児童館—0～児、昼まで。昼から小学生が過ごす。主任児童—活動の場を広げたい。
- ・民生委員の成り手がなく、どこの地域も悩んでいる。
- ・活動の内容が浸透していない。大変というイメージが強いのでは。
- ・岩見沢市；子どもの虐待—児相の仕事が大変そう。人数が少ない？情報交換—警察、民生、学校等の月に分けて。
- ・子どもの虐待、老人虐待。

第9グループ

◆身近な事全部について協議

- ・民生委員と主任児童委員との壁、子育て世代との壁。どのように克服するか。
→主任児童委員が子育て世代に一番近いので情報交換を密に克服。
- ・定例会でも主任児童委員の一言コーナーを。
- ・地域子育て支援（応援団）として学校や地域、児童館との連携、子育てサロン参加（児童委員、主任児童委員みんなで）。主任児童委員は各機関とのパイプ役。
- ・学校—ケース会議。児童委員との連携、情報交換必要（理解）。不審者情報—見守り協力、地域の力。朝の見守り—地域の力。不登校児童の見守り—地域でどのように過ごしているか。
- ・児童館との連携—児童館祭りのお手伝い。昔遊び
- ・地域との連携（地域の子供に顔を知ってもらう活動）—七夕、盆踊り、お神輿、夏休みのラジオ体操（子供の様子を身近で見れる）。挨拶運動（町内会）、毎月行う。年数が経ち、高校生となっても挨拶。
- ・大切な活動を今後もやっていく決意
- ・活動を楽しくやる事、継続するコツ。

第10グループ

- テーマ1「子どもたちの身近なおとなとなり、地域の子育て応援団となるために」
- テーマ2「子育て、子育てを応援する地域づくりを進めるために」
テーマ1と2を中心に地域別に協議した。

◆児童の地域の関わり方はどうなっているか。

- ・岩見沢市：学校は主任児童委員中心。生活指導の先生に会いたい、校長、教頭が対応。児童館へ月2～4回協力してお手伝い。アンパンマン等。
 - ・北広島市：見守り活動、校門の前。月3回位、地域で生指連の意見交換をしている。町内会でやっている行事等、児童委員と主任児童委員が一体となってやっている。子供サロン活動学習センターという所で。
(月1回位)
 - ・旭川市：ブックファースト(絵本)。学校へも挨拶に行く。行事参加。週1回水曜日に声かけ見守り(5～9月はラジオ体操にも参加している。毎日、児童委員も参加)
 - ・苫小牧市：市内でも地域によって子供の数が違う。学校の合併がある。学校の行事等を通して連携している。生指連等。
 - ・江別市：主任児童委員が赤ちゃん訪問をしている。定例会議の時等、学校の校長等に話をしてもらう事もある。2～3年前、子育て世代に補助を出している。少し子供が増えている。行事へ主任児童委員と一緒に参加している(学校訪問)。町内会のラジオ体操。老人も子供も参加出来ている。子供の見守り、交通安全7～8時に声かけをしている。「ありがとう」と言われる事もあり嬉しい。(子ども食堂)大学関係者で行っているようだ。
 - ・北見市：学校との関係が表面的なのでは。校長、教頭が変わると対応が変わる。逆に気になる家庭があるならば、学校に教えてほしいと言われる。地域によって違う(児童関係に関する事)。個人情報にはとても気を遣う。児童センターの行事に協力して準備して参加→子供との遊びをしている。工作等。赤ちゃん訪問。2人目から(主任児童委員)12年目。話を聞いてあげる。気になるお母さんは保健師さんにつなげる。
- ※児童委員、主任児童委員の連携が上手くいっていて、地域に密着した活動が出来ていると感じました。

第11グループ

○テーマ2「子育て、子育てを応援する地域づくりを進めるために」

◆地域の状況について

- ・子供の虐待について、各地域である。主任児童委員が中心となり児相とも連携して取り組んでいる。定例会でも報告がある。学校や町内会、保護司、児童委員等が年2回情報交換している。
- ・声かけ運動(登下校時)
- ・子育て支援(学習支援、食事支援など)民生委員も協力。月1回。約50人参加。
- ・学習支援は大学生が担当して実施。
- ・寺院も子ども食堂に支援してくれている。
- ・支援には国の力が必要であるが、その前に地域や個人で出来ることから始める取り組みが必要であり、その繋がりを大きくしていく事が今後に向けて大切である。
- ・まとめ—民生委員だけでなく、いかに他の団体に働きかけるかが、子育てを応

援する輪を広げる事になるのではないか。

- ・市民委員会が中心になっている。町内会、警察、保護司、民生委員等が集まって青少年の育成を通じて子育て支援の活動をしている。

第13グループ

- ・新十津川町：農家対象でテーマに沿った件では問題はない。
 - ・長沼町：(主任児童委員) 5校あった学校が1校になり、学校と児童委員とのパイプ役。登下校の見守り。地域行事に出席する事が多い。
 - ・せたな町：町村合併7200名。高齢者が多く、後継者がいなく、半分が高齢者で認知症の方も多。将来が不安。
 - ・当麻町：6445人。小290人、中170人・10人(車椅子3人含)。高齢者も多く、地域全員～あいさつ運動(小中学校対象)。普段も声を掛けてくれるようになった。
 - ・新十津川町：区長さんが積極的な方で、サロンを開いているが、出てきて欲しい方が来てくれない。若い親たちのサロンを設けてほしいと要望がある。
 - ・大樹町：(主任児童委員) 昨年、子ども食堂を開く。民生女性有志19名、月1回。
- ◆情報交換、地域の活動等、出し合って話し合った。
- ・新十津川町：子ども食堂3年になるが、子ども食堂にしたかったが、みんなの食堂とし、地域の方、子供対象とし、13:00～オープン16:00～クローズ18:30。子ども0円、大人300円。子育て中のママが来て大盛り上がりする。SNSを開く。
 - ・当麻町：買い物支援。買い物出来ない。車がない(登録制)。ボランティアで町の車を出してもらいやっている。子ども食堂をやりたいが、どうやってやったらいいか分からないし、子供は食事をとっているかどうか分からない。保護司は子供の事は知っているが、民生委員まで知らされない。1歳児に町からプレゼントがある。防災無線で町の行事、お知らせを知る事が出来る。1人で200戸持っている方もいて、2名にしてもらった。でも成り手がいない。役場で横の繋がりが無いので、色々な課から要望があって大変。
 - ・せたな町：南西沖地震後、防災無線(漁業者)外まで聞こえる。民生委員、区ごとにやり方が違うので、町村合併で足の引き合いになって大変である。民生委員になると、保護司にさせられ、役が重複する。老人が多く、孤独死が多く、立ち合いも民生委員がする事がある。高齢者一除雪作業をしなくてはならない。
 - ・大樹町：昨年5月に子ども食堂を開いた。有志19名で行っている。若い子育てをしている家族、小中高、地域の方対象。0歳～高校生0円、大人300円(居場所作り)。町の施設を借りてやっているので、光熱費、食器等にかからないので助かっている。来てほしい子には民生委員から誘ってもらおうようにしている。食材は町内の方の寄付でやりくりしている。高校生にも参加してもらっている(時々)。

◆まとめ

- ・13グループがそれぞれの町での情報交換をした。特にテーマに沿った話はしなかった。新十津川町、大樹町でも、子ども食堂を開いて、上手くいっている所、食堂をやっている事が伝わっていない事、やりたいけれど、どうしたらよいか分からない所も。
- ・子供に関しては、家庭に入ってしまったら、食事をとっているのかどうか分からず、保健師に聞いても民生委員まで情報が伝わらない状態。
- ・防災無線で町での行事、お知らせを知る事が出来る。
- ・子供の出生等知る事が出来るので、聞き逃さないようにしている。
- ・老人の多いせたま町では、町内合併になった事から区が多くなり、区ごとにやり方が違うので、足の引き合いになっている状態。又、孤独死も多く、立ち合いも民生委員がする事が多くあり、やり手がない。

第15グループ

○テーマ5「グループで協議、情報交換したい事項」

◆一斉改選について

- ・事務局と推薦委員会の連携。
- ・地域によって力の入れ方、動きが異なる。
- ・町会が民生委員活動をどこまで理解しているか。
- ・「大変だ」というイメージが先行している。

◆民生委員の認知度の低さ。

- ・函館市：PR動画を作成。若者に向けて。
- ・後任を見つけないと辞められない。
- ・行政との連携

◆主任児童委員

- ・学校の統廃合による校区変更。
- ・学校側が主任児童委員を知らない→教育委員会を通じて連携。
- ・年2回の部会。主任児童委員、学校の先生が分散会形式で意見交換。
- ・民生委員、児童委員と主任児童委員
- ・地区の会長が主任児童委員に何をさせればいいのか分かっていない。
- ・何かあった時は会長と児童委員と主任児童委員で連携（事務局として出来る事、円滑な連携のために、流れ、ネットワークを事前に確認することが大切）。
- ・活動記録の「要保護」に記載があった場合は虐待を疑う。（事務局）

◆民児協の会長

- ・選考委員会→理事会
- ・内々で話し合う。（理事）
- ・会長のみ
- ・会長+1名（副会長）
- ・会長+2名（副会長）
- ・規模が大きな市では1名ずつ集めることも大変。